

県内企業景況調査結果

(2024年4~6月期実績、2024年7~9月期見通し)

— 県内景況は、拡大している —

(前回)県内景況は、拡大している

- 業況判断D.I.は「好転」超幅が縮小したものの、**9期連続のプラス**
来期は「好転」超幅がほぼ横這いの見通し (4ページ)
- 景況天気は8期連続の「晴れ」。来期も引き続き「晴れ」となる見通し (7ページ)

■主要D.I.(カッコ内は前回調査からの変動幅、単位:%ポイント)

(参考)

	業況判断D.I.	景況天気	売上D.I.	採算水準D.I.	資金繰りD.I.	雇用判断D.I.
当期実績	12.5 (▲5.7)	 晴れ 16.6(▲1.5)	11.9 (▲9.7)	32.4 (+1.4)	5.4 (+3.8)	56.4 (▲2.5)
来期見通し	13.8	 晴れ	16.3	34.3	2.9	55.8

[調査内容についてのお問い合わせ先]

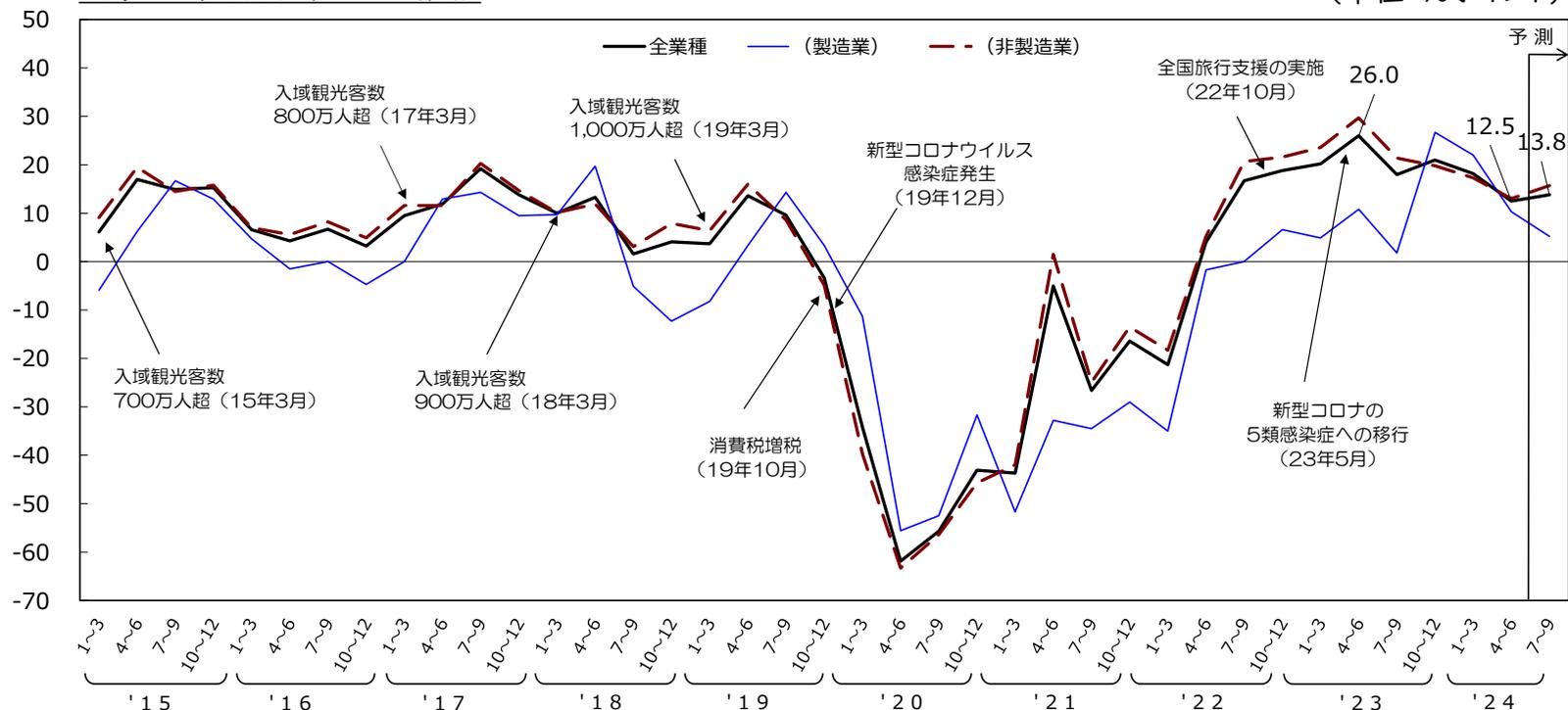
調査部 金融経済調査課(担当:松本) 沖縄県那覇市おもろまち1-2-26 電話:098-941-1725

調査結果の概要 (I)業況判断D.I.

- 実績(4~6月期): 「好転」超幅が縮小したものの、**9期連続のプラス** [前期18.2%ポイント(以下、単位省略)⇒当期12.5]
 - 観光需要、個人消費、建設需要が堅調に推移し、県内景況は拡大している
- 見通し(7~9月期): 来期は「好転」超幅がほぼ横這いの見通し [来期13.8]
 - 人手不足、原材料高、人件費増の影響はあるも、県内景況は総じて拡大基調が続くとみられる

図表I 業況判断D.I.の推移

(単位:%ポイント)



(2)景況天気図 (売上D.I.、採算水準D.I.、資金繰りD.I.の平均値)

- 実績：8期連続の「 晴れ」 [前期18.1 ⇒ 当期16.6]

建設業で「 (薄曇り)」→「 (晴れ)」、情報通信業で「 (曇り)」→「 (薄曇り)」

卸売業で引き続き「 (快晴)」、製造業、小売業、運輸業、サービス業、飲食店・宿泊業で引き続き「 (晴れ)」

- 見通し：引き続き「 晴れ」となる見通し [来期17.8]

飲食店・宿泊業で「 (晴れ)」→「 (快晴)」、製造業、小売業、運輸業、サービス業で引き続き「 (晴れ)」

卸売業で「 (快晴)」→「 (晴れ)」、建設業で「 (晴れ)」→「 (薄曇り)」

情報通信業で引き続き「 (薄曇り)」

図表2 全産業における景況天気図の推移

(単位:%ポイント)

区分	2023年				2024年			
	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期		7~9月期
	実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	 15.7	 20.7	 17.7	 21.0	 18.1	 (18.1)	 16.6	 17.8

 快晴 — 30以上~100以下
 曇り — △30以上~△5未満

 晴 — 10以上~30未満
 雨 — △100以上~△30未満

 薄曇り — △5以上~10未満

I. 調査要領

1. 調査目的

本調査は、県内における企業の景況を把握し、企業経営のための情報を提供することを目的とする。

2. 調査対象

沖縄県内に本社のある法人企業のうち、原則として資本金1千万円以上かつ従業員数20名以上の企業を対象とする。

3. 調査対象企業数及び回答状況

業種	項目	調査対象企業数 (A)	回答数 (B)	回答率 (%) (B)/(A) ×100
	全産業(※1)	371	312	84.1
	製造業	68	58	85.3
	建設業	68	60	88.2
	卸売業	49	44	89.8
	小売業	47	35	74.5
	運輸業	34	30	88.2
	情報通信業(※2)	23	17	73.9
	サービス業	46	39	84.8
	飲食店・宿泊業	33	26	78.8

4. 調査方法

対象企業に調査票を郵送し、自計記入を求める方法による。

5. 調査対象期間

当期:2024年4~6月期実績

来期:2024年7~9月期見通し

6. 調査実施期間

2024年5月下旬~2024年6月上旬

(発送:2024年5月20日、回収基準日:2024年6月7日)

7. 用語説明等

- 本調査は、原則として前年同期との比較による調査であるが、採算水準、在庫水準、雇用判断については当該期に関する質問となっている。
- D.I. (Diffusion Index) とは、質問に対しプラス、中立、マイナスの3つの選択肢を用意し、このうちプラスと答えた企業の割合から、マイナスと答えた企業の割合を差し引いたものである。
- 景況天気については、売上、採算水準、資金繰りD.I.を平均し、その値を5段階に区分して判定している。

※1 全産業には電力・ガス、不動産業が含まれるため、各業種合計と全産業の値は一致しない。

※2 情報通信業は、①通信業、②放送業、③情報サービス業、④出版・新聞業から構成される。

Ⅱ. 調査結果 Ⅰ. 業況判断

— 当期は「好転」超幅が縮小したものの、9期連続のプラス

来期は「好転」超幅がほぼ横這いの見通し —

- 自社の業況を総合的に判断する当期の業況判断D.I. (全産業)は12.5と、9期連続のプラスとなった。
- 堅調な個人消費や観光需要を背景に高水準を維持し、特に運輸業や飲食店・宿泊業をはじめとする幅広い業種で「好転」超となった。
- 来期の業況判断D.I.は13.8と、「好転」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表3 業況判断D.I. (前年同期比、「好転」-「悪化」企業割合)

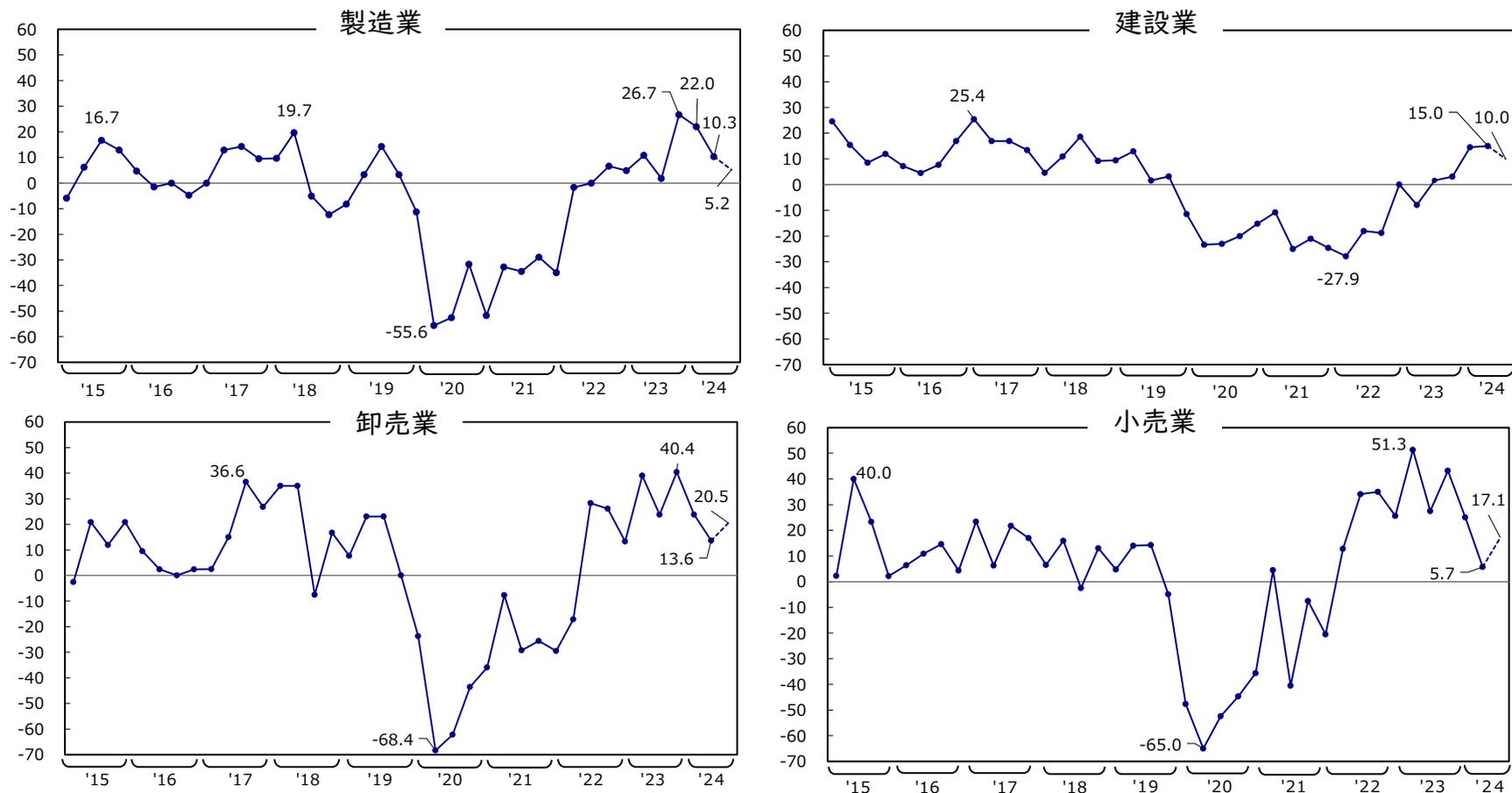
(単位:%ポイント)

業種	区分	2023年				2024年			
		1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期		7~9月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①-②)	20.2	26.0	18.0	21.0	18.2	(16.6)	12.5	13.8
	① 好転(%)	39.5	41.6	35.7	37.5	34.8	(29.5)	29.2	27.6
	不変(%)	41.3	42.8	46.6	46.0	48.6	(57.7)	54.2	58.7
	② 悪化(%)	19.3	15.6	17.7	16.5	16.6	(12.9)	16.7	13.8
	製造業	4.9	10.8	1.8	26.7	22.0	(16.9)	10.3	5.2
	建設業	0.0	△ 7.9	1.6	3.1	14.5	(9.7)	15.0	10.0
	卸売業	13.3	39.0	23.8	40.4	23.8	(9.5)	13.6	20.5
	小売業	25.6	51.3	27.5	43.2	25.0	(22.2)	5.7	17.1
	運輸業	35.5	43.8	28.1	19.4	9.4	(21.9)	33.3	23.3
	情報通信業 (※)	4.8	△ 19.0	△ 5.3	△ 27.8	△ 5.3	(0.0)	△ 11.8	△ 17.6
	サービス業	26.8	37.2	24.4	17.5	19.5	(26.8)	5.1	12.8
	飲食店・宿泊業	88.9	81.5	63.0	28.6	24.0	(24.0)	23.1	38.5

※情報通信業は、①通信業、②放送業、③情報サービス業、④出版・新聞業から構成される。

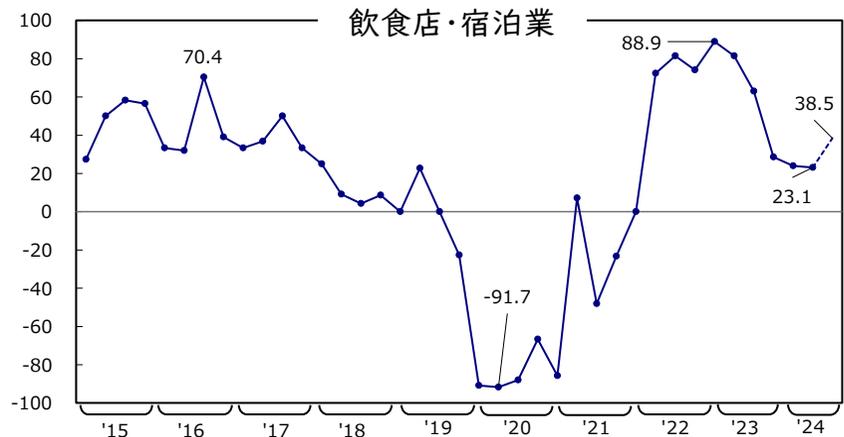
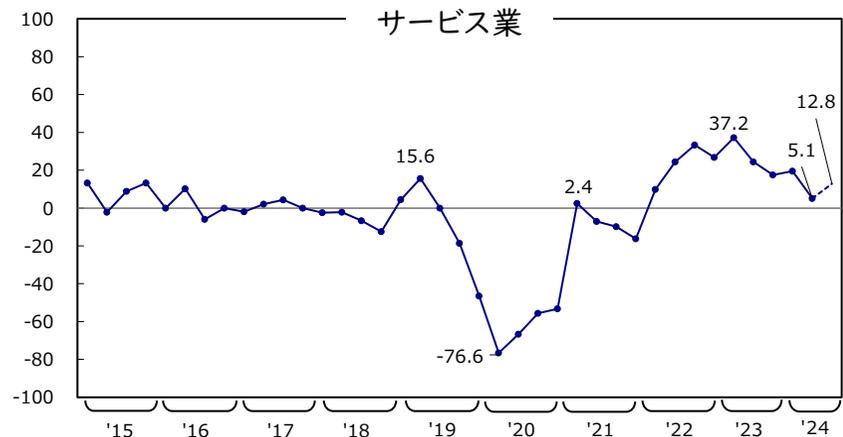
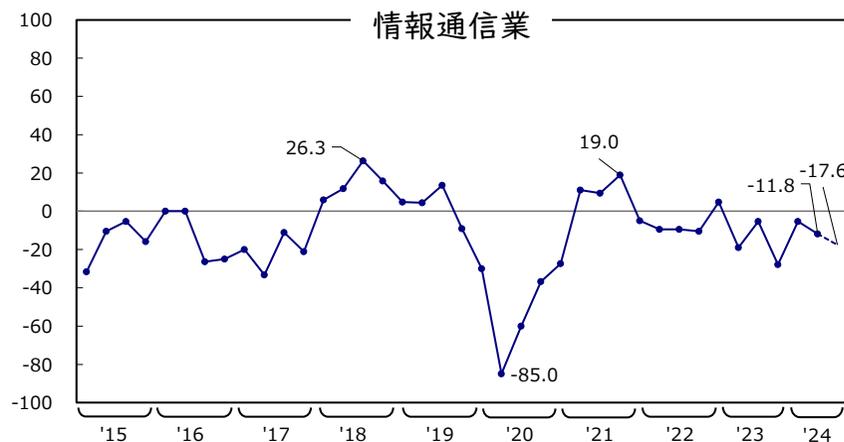
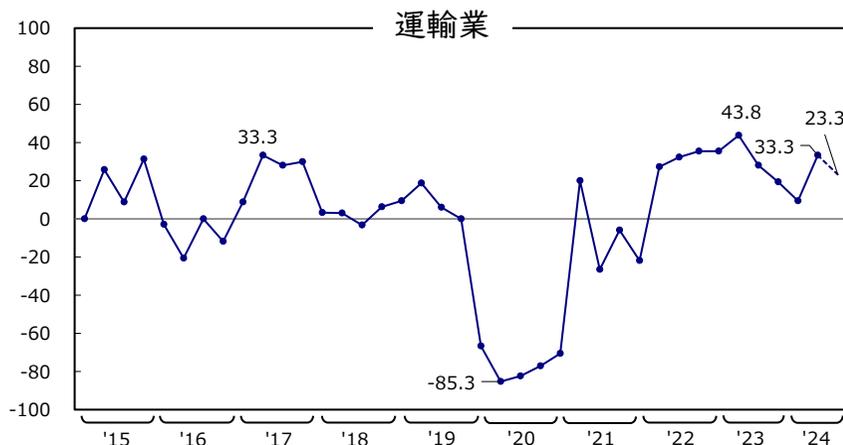
- ・ 製造業では、食料品で段階的な価格転嫁の効果により業況改善したものの、印刷や包装資材で原材料高などにより「悪化」超がみられ、全体では「好転」超幅が大幅に縮小した。
- ・ 卸売業・小売業では、インバウンド需要をうけて飲食料品卸売業、百貨店・スーパーが堅調に推移したものの、今期「不変」回答の割合が高かったことで「好転」超幅が大幅に縮小となった。

図表4-1 業種別の業況判断D.I.の推移 (単位:%ポイント、点線は見通し)



- 運輸業では、増加する外国人観光客が旅行需要をけん引し旅客運送や食料品などの輸送需要が高まり業況改善したことから、全体で「好転」超幅が大幅に拡大した。
- 情報通信業では、「悪化」超幅が拡大したものの、通信業や情報サービス業では受注増加により「好転」回答がみられた。
- 飲食店・宿泊業では、インバウンドや国内からの団体客を取り込み「好転」超幅がほぼ横這いとなった。

図表4-2 業種別の業況判断D.I.の推移 (単位:%ポイント、点線は見通し)



2. 景況天気

— 当期は8期連続の「晴れ」、来期も「晴れ」の見通し —

- 当期の県内企業の動向を全産業ベースでみると、売上D.I. (21.6→11.9)で「増加」超幅が縮小したものの、資金繰りD.I. (1.6→5.4)で「楽」超幅がやや拡大、採算水準D.I. (31.0→32.4)で「黒字」超幅がほぼ横這いとなったことから、景況天気(18.1→16.6)は8期連続の「晴れ」となった。
- 来期の見通しは、資金繰りD.I. (2.9)で「楽」超幅がやや縮小するものの、売上D.I. (16.3)で「増加」超幅がやや拡大、採算水準D.I. (34.3)で「黒字」超幅がほぼ横這いとなることから、景況天気(17.8)は「晴れ」の見通し。

図表5-1 景況天気図 (売上D.I.、採算水準D.I.、資金繰りD.I.の平均値) (単位:%ポイント)

業種	区分	2023年				2024年			
		1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業		15.7	20.7	17.7	21.0	18.1	(18.1)	16.6	17.8
製造業		8.7	8.2	8.3	25.0	26.0	(22.0)	19.5	21.8
建設業		Δ2.1	2.6	2.7	6.3	9.1	(10.2)	11.1	7.2
卸売業		17.8	28.5	33.3	38.3	33.3	(23.0)	30.3	25.8
小売業		29.9	39.3	26.7	33.3	25.9	(25.0)	15.2	24.8
運輸業		24.7	31.3	25.0	24.7	18.8	(18.8)	24.4	12.2
情報通信業		Δ7.9	Δ17.5	Δ22.8	Δ27.8	Δ21.1	(10.5)	Δ3.9	0.0
サービス業		22.8	31.8	19.5	19.2	17.1	(21.1)	12.8	12.0
飲食店・宿泊業		43.2	50.6	50.6	32.1	14.7	(9.3)	12.8	37.2

	快晴	—	30以上~100以下
	晴	—	10以上~30未満
	薄曇り	—	△5以上~10未満
	曇り	—	△30以上~△5未満
	雨	—	△100以上~△30未満

図表5-2 全産業における主要3指標の推移

区分	2024年			
	1~3月期	4~6月期	7~9月期	
	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業				
売上D.I.	21.6	(22.3)	11.9	16.3
採算水準D.I.	31.0	(33.5)	32.4	34.3
資金繰りD.I.	1.6	(Δ1.6)	5.4	2.9

3. 売上

— 当期は「増加」超幅が縮小、来期は「増加」超幅がやや拡大の見通し —

- 当期の売上D.I.は、全産業で11.9と「増加」超幅が縮小したものの、22年4-6月期以降「増加」超で推移している。
- 小売業では、土産品で昨年の全国旅行支援の終了にともなう国内観光客減少の影響がみられたものの、百貨店・スーパーはインバウンド需要や値上げにより好調に推移した。
- 情報通信業では、放送業、出版・新聞業で引き続き購読や広告が減少したものの、通信業の契約者数増加などをうけて、「減少」超幅が大幅に縮小した。
- 来期は、全産業で16.3と「増加」超幅がやや拡大の見通しとなっている。

図表6 売上D.I. (前年同期比、「増加」-「減少」企業割合)

(単位:%ポイント)

区分 業種	2023年				2024年			
	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	
	実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業 D.I. (①—②)	25.0	29.3	21.4	27.4	21.6	(22.3)	11.9	16.3
① 増加(%)	51.8	53.3	46.9	48.5	43.9	(38.6)	36.9	34.0
不変(%)	21.4	22.8	27.6	30.5	33.9	(45.1)	38.1	48.4
② 減少(%)	26.8	24.0	25.5	21.0	22.3	(16.3)	25.0	17.6
製造業	23.0	12.3	7.1	38.3	27.1	(22.0)	17.2	19.0
建設業	△ 14.1	△ 12.7	△ 4.8	4.7	3.2	(3.2)	0.0	△ 1.7
卸売業	17.8	39.0	33.3	48.9	35.7	(26.2)	25.0	20.5
小売業	43.6	64.1	45.0	54.1	38.9	(38.9)	11.4	17.1
運輸業	41.9	46.9	31.3	25.8	21.9	(34.4)	30.0	26.7
情報通信業	△ 14.3	△ 28.6	△ 21.1	△ 27.8	△ 36.8	(15.8)	△ 17.6	0.0
サービス業	41.5	55.8	26.8	20.0	29.3	(22.0)	5.1	12.8
飲食店・宿泊業	88.9	85.2	66.7	39.3	40.0	(32.0)	19.2	50.0

4. 採算水準

— 当期は「黒字」超幅がほぼ横這い、来期も「黒字」超幅がほぼ横這いの見通し —

- 当期の採算水準D.I.は全産業で32.4と「黒字」超幅がほぼ横這いとなり、5期ぶりに全業種で「黒字」超となった。
- 運輸業では、燃料費の高騰、新紙幣導入、設備の老朽化への対応による経費負担があるものの、バスの運賃改定やインバウンド需要の増加にともない「黒字」超幅が拡大した。
- 飲食店・宿泊業では、リゾートホテルで修学旅行などの団体客を取り込み「黒字」回答がみられた。
- 来期は、全産業で34.3と「黒字」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表7 採算水準D.I. (当該期、「黒字」-「赤字」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2023年				2024年			
		1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期		7~9月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I (①—②)	19.6	24.0	24.5	31.7	31.0	(33.5)	32.4	34.3
	① 黒字(%)	39.5	43.7	42.9	46.6	47.0	(45.5)	46.2	45.5
	トト(%)	40.7	36.5	38.8	38.4	37.0	(42.6)	40.1	43.3
	② 赤字(%)	19.9	19.8	18.3	14.9	16.0	(11.9)	13.8	11.2
	製造業	8.2	10.8	10.7	36.7	37.3	(33.9)	36.2	39.7
	建設業	14.1	20.6	19.4	17.2	27.4	(29.0)	26.7	25.0
	卸売業	42.2	48.8	69.0	66.0	61.9	(45.2)	56.8	59.1
	小売業	33.3	41.0	25.0	37.8	30.6	(36.1)	34.3	45.7
	運輸業	19.4	31.3	21.9	35.5	31.3	(28.1)	40.0	10.0
	情報通信業	0.0	△ 14.3	△ 36.8	△ 38.9	0.0	(21.1)	5.9	△ 11.8
	サービス業	26.8	27.9	22.0	32.5	31.7	(48.8)	30.8	28.2
	飲食店・宿泊業	0.0	11.1	44.4	25.0	△ 8.0	(8.0)	3.8	50.0

5. 資金繰り

— 当期は「楽」超幅がやや拡大、来期は「楽」超幅がやや縮小する見通し —

- 当期の資金繰りD.I.は、全産業で5.4と「楽」超幅がやや拡大した。
- 来期は、全産業で2.9と「楽」超幅がやや縮小する見通しとなっている。

図表8 資金繰りD.I. (前年同期比、「楽」-「苦しい」企業割合)

(単位:%ポイント)

区分 業種	2023年				2024年			
	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期		7~9月期
	実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業 D.I. (①—②)	2.4	8.7	7.1	4.0	1.6	(△1.6)	5.4	2.9
① 楽 (%)	13.0	17.4	15.2	13.1	11.9	(8.8)	13.1	10.6
不変 (%)	76.5	74.0	76.7	77.7	77.7	(80.9)	79.2	81.7
② 苦しい (%)	10.5	8.7	8.1	9.1	10.3	(10.3)	7.7	7.7
製造業	△ 4.9	1.5	7.1	0.0	13.6	(10.2)	5.2	6.9
建設業	△ 6.3	0.0	△ 6.5	△ 3.1	△ 3.2	(△1.6)	6.7	△ 1.7
卸売業	△ 6.7	△ 2.4	△ 2.4	0.0	2.4	(△2.4)	9.1	△ 2.3
小売業	12.8	12.8	10.0	8.1	8.3	(0.0)	0.0	11.4
運輸業	12.9	15.6	21.9	12.9	3.1	(△6.3)	3.3	0.0
情報通信業	△ 9.5	△ 9.5	△ 10.5	△ 16.7	△ 26.3	(△5.3)	0.0	11.8
サービス業	0.0	11.6	9.8	5.0	△ 9.8	(△7.3)	2.6	△ 5.1
飲食店・宿泊業	40.7	55.6	40.7	32.1	12.0	(△12.0)	15.4	11.5

6. 借入難易

— 当期は「容易」超幅がほぼ横這い、来期は「容易」超幅が横這いの見通し —

- 当期の民間金融機関からの借入難易D.I.は、全産業で3.5と「容易」超幅がほぼ横這いとなった。
- 来期は、全産業で3.5と「容易」超幅が横這いの見通しとなっている。

図表9 借入難易D.I. (前年同期比、「容易」-「困難」企業割合)

(単位:%ポイント)

区分 業種	2023年				2024年			
	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 実績	10~12月期 実績	1~3月期 前回実績	4~6月期 前回見通し	7~9月期 今回実績	10~12月期 今回見通し
	全産業 D.I. (①-②)	1.8	2.7	6.2	3.0	4.4	(4.1)	3.5
① 容易(%)	6.0	4.8	8.7	5.5	6.9	(6.6)	5.8	5.8
不変(%)	89.8	93.1	88.8	92.1	90.6	(90.9)	92.0	92.0
② 困難(%)	4.2	2.1	2.5	2.4	2.5	(2.5)	2.2	2.2
製造業	△ 1.6	△ 1.5	7.1	3.3	6.8	(6.8)	5.2	3.4
建設業	6.3	3.2	3.2	3.1	4.8	(1.6)	5.0	5.0
卸売業	0.0	2.4	7.1	2.1	7.1	(7.1)	4.5	4.5
小売業	5.1	2.6	5.0	0.0	11.1	(8.3)	2.9	5.7
運輸業	0.0	0.0	9.4	6.5	△ 6.3	(△3.1)	0.0	0.0
情報通信業	0.0	4.8	△ 5.3	5.6	0.0	(5.3)	0.0	0.0
サービス業	2.4	9.3	9.8	2.5	0.0	(0.0)	2.6	2.6
飲食店・宿泊業	0.0	3.7	11.1	3.6	8.0	(8.0)	3.8	3.8

Ⅲ. 参考 販売数量、販売価格

参考1. 販売数量 ※製造業・卸売業・小売業のみ

- 当期は△7.3と「増加」超から「減少」超へ転じた。来期は△4.4と「減少」超幅がやや縮小する見通しとなっている。

図表10 販売数量D.I. (前年同期比、「増加」-「減少」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2023年				2024年			
		1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期		7~9月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①-②)	11.0	11.0	5.8	23.6	10.2	(13.1)	△ 7.3	△ 4.4
	① 増加(%)	44.1	41.4	38.4	44.4	36.5	(27.7)	25.5	23.4
	不変(%)	22.8	28.3	29.0	34.0	37.2	(57.7)	41.6	48.9
	② 減少(%)	33.1	30.3	32.6	20.8	26.3	(14.6)	32.8	27.7

参考2. 販売価格 ※製造業・卸売業・小売業のみ

- 当期は52.6と「上昇」超幅がやや拡大した。来期は54.0と「上昇」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表11 販売価格D.I. (前年同期比、「上昇」-「下降」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2023年				2024年			
		1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期		7~9月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①-②)	76.6	64.8	71.7	63.2	49.6	(48.2)	52.6	54.0
	① 上昇(%)	79.3	69.0	73.9	67.4	55.5	(51.1)	56.9	56.9
	不変(%)	17.9	26.9	23.9	27.8	38.7	(46.0)	38.7	40.1
	② 下降(%)	2.8	4.1	2.2	4.2	5.8	(2.9)	4.4	2.9

在庫水準、雇用判断

参考3. 在庫水準 ※製造業・卸売業・小売業のみ

- 当期末は△2.9と、前期末と比べて「過剰」超幅がやや拡大した。

図表12 在庫水準D.I. (当該期末の水準、「不足」-「過剰」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2023年				2024年	
		3月期末	6月期末	9月期末	12月期末	3月期末	6月期末
全産業D.I. (①-②)		△ 2.1	△ 2.1	1.4	△ 6.3	△ 0.7	△ 2.9
	① 不足(%)	6.9	6.9	10.1	4.9	9.5	7.3
	適正(%)	84.1	84.1	81.2	83.3	80.3	82.5
	② 過剰(%)	9.0	9.0	8.7	11.1	10.2	10.2

参考4. 雇用判断

- 当期の雇用判断D.I.は、全産業で56.4と「不足」超幅がやや縮小した。
- 来期は、全産業で55.8と「不足」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表13 雇用判断D.I. (当該期、「不足」-「過剰」企業割合)

(単位:%ポイント)

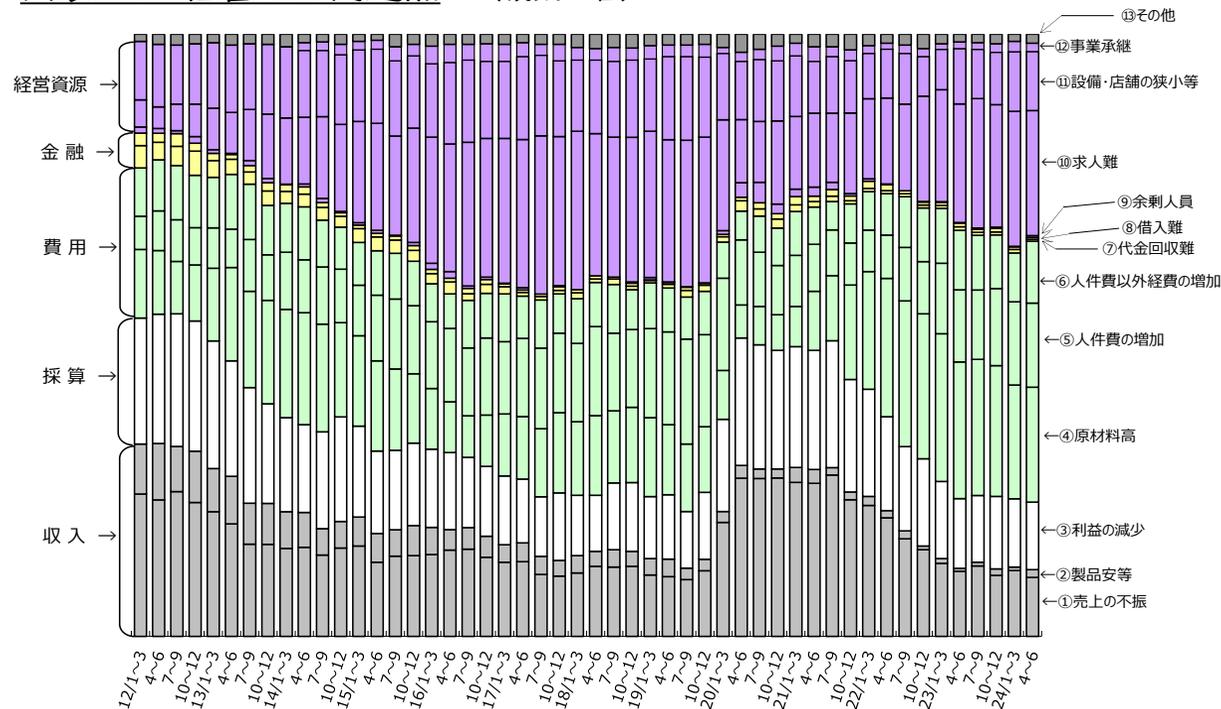
業種	区分	2023年				2024年			
		1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期		7~9月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①-②)	51.8	48.8	50.3	54.9	58.9	(56.1)	56.4	55.8
	① 不足(%)	53.3	50.6	51.9	56.4	60.2	(57.7)	57.7	56.7
	適正(%)	45.2	47.6	46.6	42.1	38.6	(40.8)	41.0	42.3
	② 過剰(%)	1.5	1.8	1.6	1.5	1.3	(1.6)	1.3	1.0

経営上の問題点

参考5. 経営上の問題点

- 経営上の問題点としては、2期連続「求人難」の割合が最も高く、続いて「原材料高」、「人件費の増加」の順となった。
- 業種別にみると、建設業、卸売業、小売業、運輸業、サービス業において、「求人難」と回答した割合が最も高い。

図表14 経営上の問題点 (複数回答)



(単位:%)

区分		全産業
①	売上の不振	9.8
②	製品安等	1.3
③	利益の減少	11.2
④	原材料高	19.1
⑤	人件費の増加	14.0
⑥	人件費以外経費の増加	10.3
⑦	代金回収難	0.3
⑧	借入難	0.3
⑨	余剰人員	0.3
⑩	求人難	20.8
⑪	設備・店舗の狭小等	9.8
⑫	事業承継	1.4
⑬	その他	1.5